

学校法人鶏鳴学園
青翔開智中学校・高等学校

誰かの課題を創造的に解決しよう！

～デザイン思考を活用した探究の進め方～

Ver 1.0（2024作成）

1じっくり・しっかり 観察しよう

【個人】観察した結果を記録していこう。記録する際には「事実」を記入するように心がけよう。「気づき」を記入しすぎると「思い込み」が生じるかも！？

「モノ」の観察結果	「ヒト」の観察結果	メモ (感情の予想)
私に見える	相手が見ている	
	相手が聞いている	
私に聞こえている	相手が話している	
私を感じる匂い・触り心地 等	相手がしている動作	

☆「事実」を集めるための「観察」のポイント☆

テーマや視点を
決めて観察する

数字・形・色・
状態で記録する

辛そう・楽しそう
等の感情の予想は
メモへ追いやる

2インタビューで感情を確認しよう

【チーム】インタビューは相手の心を知る貴重で大切な時間。あらかじめ聞いておきたいリストを作っておこう。その場の流れで新しい質問項目を追加するアドリブ力も求められるぞ。

優先 順位	質問項目	回答内容	メモ

☆課題設定（問題提起）につながるインタビューのポイント☆

理想

ギャップ？
←.....→

現実

課題設定には理想と現実のギャップを理解する必要があります。そのためここでは「理想」と「現実」のそれぞれを具体的に理解できるようインタビューしていきましょう

3相手になりきって感情を体験しよう

【チーム】相手と同じ目線に立って体験してみよう。相手と同じ視点でものごとを見てみよう。相手の価値観で考えてみよう。あなたの感じる世界とどう違うだろう。

なりき る相手	なりきる方法 (〇〇の視点でもう1回見てみる, 〇〇の機能を制限する)	なりきった結果 (嬉しいこと, 辛いことの両方に注目)

4 「事実」と「気付き」を整理しよう（個人）

【個人】 1～3で記録した複数の「事実」をもとに、「気付き」としてどんなことがあるか考えよう。その人が感じていること（嬉しい，悲しい），抱えている問題，持っている魅力など。

事実1

事実2

事実3

→

・コミュニケーションが不足？

・ぶつかる危険あり

・いろんな年代が集まっている！

「事実」 1～3で集めた複数の「事実」	「気付き」 ポジティブ・ネガティブの両方
	→
	→
	→
	→

5 「事実」と「気付き」を整理しよう（チーム）

【チーム】 個人で整理した「事実」と「気付き」を共有しよう。同じ「事実」を使って異なる「気付き」，異なる「事実」を使って同じ「気付き」に注目してみよう。チームとして重要な気付きをいくつか選んで書き出そう。その気付きは「理想に関わること？」「現実に関わること？」

No	「気付き」の内容	「気付き」の種類
		理想 or 現実

6 「理想」と「現実」を整理しよう

【チーム】 課題は「理想」と「現実」のギャップの部分に存在します。「理想」と「現実」のギャップは必ずしも同じ人のものとは限りません。気付きを整理しながら下にまとめましょう。

理想	誰の	現実	誰の

1 理想と現実のギャップを探そう

【個人】共感フェーズで整理した理想と現実を使って、そこにあるギャップを言葉で表現しよう。異なる人の「理想」と「現実」の間にも課題は生じるかも！

理想	現実	ギャップ

【チーム】個人で考えたギャップを共有して、チームで1つ扱いたい（解決したい）ギャップを決めて、課題として整理していきましょう！

理想	現実	ギャップ

2 課題を整理しよう

【チーム】課題を明確にするために、下の表を使って整理しましょう。特に課題が生じるプロセスはアプローチを考える上でとても大切です。

項目		説明
誰が	誰が抱えている課題？	
時間	いつ感じる課題？	
場所	どこで生じる課題？	
原因	何が原因で生じている？	
プロセス	どういう過程で生じている？	
感情	課題によってどんな感情？	

3 世の中に同じような課題があるか調べよう

【個人】みなさんが設定した課題と同じような課題が世の中にはあるのでしょうか？あるとしたらどのような解決のための取り組みがなされているのでしょうか？新聞データベース等を活用して調査してみましょう。

【チーム】それぞれが調査した結果を共有しましょう。調査結果は解決アイデアの検討やプレゼンテーションにも使用する大切なデータです。スプレッドシートを活用して確実に記録するようにしてください。

4 課題解決のアプローチを考えよう

課題を生じさせるプロセスをどのように変えれば良いのか、新しいプロセスを考えよう（アプローチを考えよう）。どんな行動になったら良い？どんな体験になったら良い？どんな認識になったら良い？等、課題を生じさせない新しいプロセス（アプローチ）を複数考えよう！

5 解決アイデアを考えるためのコンセプトを設定しよう

ここまでで、「具体的な課題の設定」と「課題解決のためのアプローチ」を考えました。課題解決の具体的な方法を考えているうちに最初に設定したゴールを忘れないために、コンセプトとして整理しておきましょう。

「誰が」に記入した人を転記	アプローチ（新しいプロセス）をここに記入	課題の「感情」をどんな「感情」に変えたい？	
を	で によって	にする	アイデアを考える

アイデア創出フェーズ：コンセプト→具体的アイデア

班 メンバー

1 課題・ペルソナ・コンセプトを整理しよう

課題とその原因（〇〇によって、〇〇の状態になっている）

課題解決のために有効なこと、やりたいこと、できること

課題を抱えている人のことについて（置かれている状況、好き、嫌い、嬉しい、等）

課題解決アイデアのコンセプト（「ペルソナ」が「理想状態」になる「アプローチ」）

2 アイデアの発散→収束

良いアイデアを見つけるためにたくさんのアイデアを考えよう！個人で発散→チームで収束

3 アイデアの整理・確認をしよう

6W2Hで整理しておこう。足りない想定があれば考えておく

誰のためにするの？

何のためにするの？

何をするの？

どうやってするの？

いつするの？

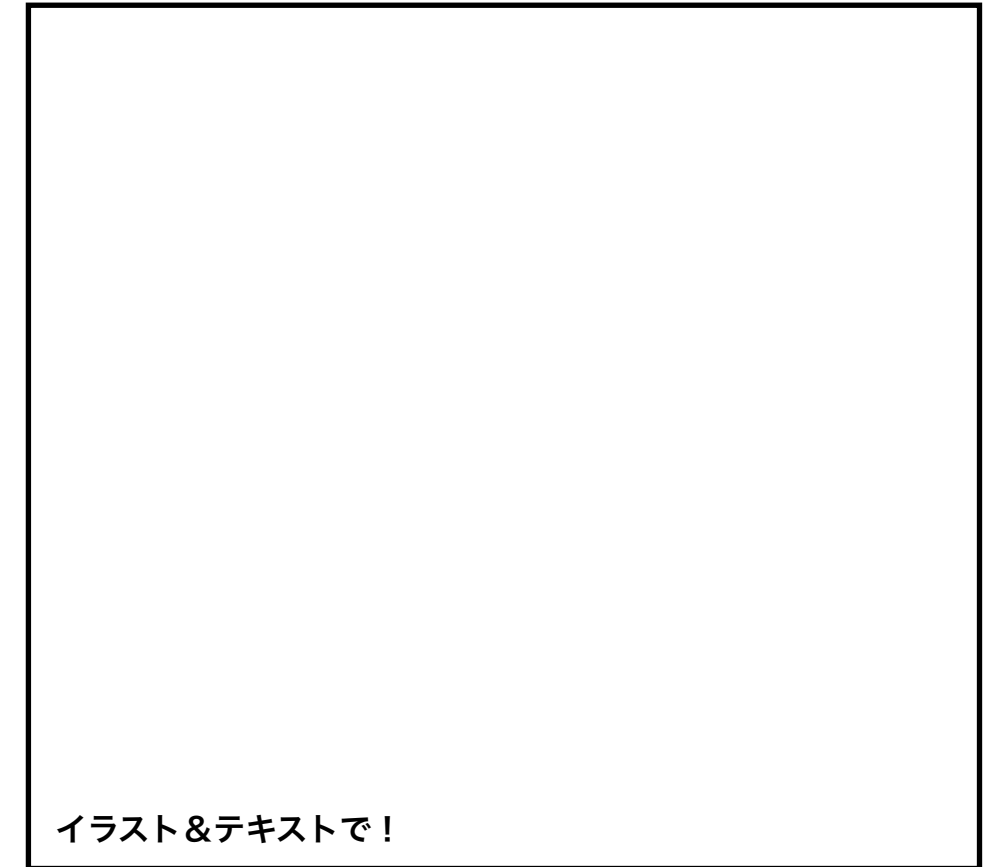
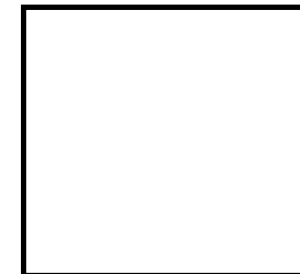
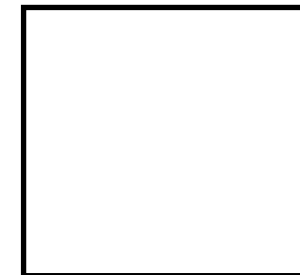
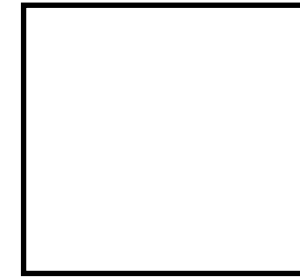
どこでするの？

誰がするの？

いくらでするの？

4 アイデアの具体を決めよう

必ずチームメンバー全員でアイデアのイラストを書き出そう。大きさや色もチェック！



5 プロトタイプ作成の計画

プロトタイプとして何を作成するか考えよう。プロトタイプ作成のプロセスを考えよう。

☆ポイント☆プロトタイプはアイデアで想定したことの一部だけでOKです。相手に伝えたい部分をプロトタイピングするようにしましょう！

何を作ってみる？どんな大きさ？何で作る？
どんな材料が必要？誰が担当する？いつまでにする？